

2 小学部の実践

		前期				後期							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
各教科等を合わせた指導	教科別の指導	「新しいともだち」ダンス、季節の歌、呼名、絵本、楽器（表現、鑑賞）		「雨となかよし」ダンス、季節の歌、呼名、絵本、楽器（表現、鑑賞）		「海に行こう」ダンス、歌、楽器演奏、鑑賞（表現、鑑賞）			「うきうきカーニバル」ダンス、歌、楽器演奏、鑑賞（表現、鑑賞）		「あったまろう」ダンス、歌、楽器演奏、鑑賞（表現、鑑賞）		
	日常生活の指導	「朝の会・終わりの会」 名前呼び、歌、当番活動											
		「当番活動」 健康観察カード運び、給食当番、始まりのチャイム、音楽係											
		「給食」 清潔、準備、片付け、食事											
		「身辺自立」物の準備、片付け、排泄、衣服の着脱											
遊びの指導	「やってみよう」図工、歌遊び、学校探検					「やってみよう」図工、水遊び、光あそび					「やってみよう」図工、雪遊び、お正月遊び		
生活単元学習	「そよかぜ探検隊」散歩、坂道ダッシュ、苗買い	「冒険しよう」ハンモック、動物たちと遊ぼう	「星の世界へレッツゴー」感触遊び、光遊び、水遊び		「パン作り名人になろう」色の弁別、実物とカード、手触り・においを楽しむ	「名探偵ヒライ」お話遊び、歌遊び	「マグネットショップ」マグネット作り、エプロン作り、看板作り、販売練習		「お正月あそび」書き初め、福笑い		「卒業パーティーをしよう」プレゼントづくり		
領域別の指導	特別活動	全校（入学式、始業式、避難訓練、終業式）				全校（始業式、学校祭、避難訓練、終業式、きょうだい学級）				全校（始業式、卒業式、修了式）			
		学部（入学おめでとう会、修学旅行） 校外学習（向日市天文館）				学部（宿泊学習、あそびのひろば）校外学習（四季彩館）				学部（6年生を送る会）			
		わくわく集会											
		居住地校交流											
	自立活動	「ゴーゴーからだ」ランニング、ダンス（健康の保持、身体の動き）											
		「運動機能」ストレッチ、歩行器、立位台（健康の保持、身体の動き、心理的な安定）											
マッチング、分類、数字、文字（環境の把握、コミュニケーション）													

[illegible]

単元名	生活単元学習「星の世界へレッツゴー」	教科・領域の視点 (教科・領域等関連表参照)	生活、国語、算数、 音楽、体育、道徳、 自立活動
学部クラス	小学部1組(1年、5年、6年)		
＜本単元でつきたい力(単元設定理由)＞			
様々な物に触れる経験が少なく、手足の感覚が過敏な児童や手指の操作性に課題のある児童がいる。いろいろな感触の物に触れる経験をとおり、物の違いや自分の好きな感触に気づいてほしい。感触あそびが苦手な児童も多いため、光遊びや面白いキャラクターによって期待感を高め、「触ってみたい」という気持ちを育てていきたい。触れるときに「冷たい」「温かい」「硬い」「柔らかい」といった言葉を添えることで言語概念を広げたい。また、よく見て選択することが少なく、どちらでもいいと表現したり、選択するという意味理解が難しかったりする児童もいる。指導者とやりとりして、選択ができるようになってほしい。また、7月には、校外学習で向日市天文館に行き、プラネタリウムを鑑賞する。暗い環境に慣れて見通しをもって楽しめるように、同じような暗い環境を作り、自分で作った作品を鑑賞する場面も設定している。			
＜前単元とのつながり＞			
前単元は、ハンモック遊び等、全身を使った運動を中心に展開したことから、本単元では、触れたり、握ったり等手指を十分に使う活動をしていきたい。また、前単元では自助具を使用して葉を取る等、操作する物をよく見て手指を自発的に動かす姿が見られた。指導者にしてもらおうのではなく、自分で身体を動かしてできるという感覚を味わってほしい。			
＜共生社会へのつながり＞			
好きな物を増やし、興味の幅を広げることで卒業後の生活を豊かにしていきたい。選択することで、自分の意思を表出し、主体的に生きる力を伸ばしたい。手指の操作性を高め、日常生活の中で自分で物を操作してできることを増やしていきたい。			
＜単元目標＞			
(1)好きな素材を選ぶことができる。(思考力・判断力・表現力等) (2)素材を入れ物に入れることができる。(知識及び技能) (3)自分から素材に触ったり、握ったりすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)			
＜単元目標の評価規準＞			
(1)好きな素材を自分なりの方法で選ぶことができたか。(思考力・判断力・表現力等) (2)色々な道具を使って素材を入れ物に入れることができたか。(知識及び技能) (3)自分から素材に触ったり、握ったりすることができたか。(主体的に学習に取り組む態度)			
＜児童生徒の実態と目標＞			
児童生徒名	実態(単元内容と絡めて)	個人の単元目標	手立て
A (6年)	ベトベトした感触が苦手だが、触られるものも多くなっている。物語風の設定になると苦手なことにも挑戦しようという気持ちが育ってきている。	・提示された三つの素材から、好きなものを選ぶことができる。お玉等の道具を使って、素材を入れ物に入れることができる。自分から素材に触ったり、働きかけたりすることができる。	・児童の見やすい位置に、選択する物を提示し、一つずつ問いかける。 ・素材を見ながら触ったり、操作したりできるように、介助方法・姿勢を工夫する。
B (6年)	手足が過敏であり、触られると手を引っ込める姿が見られる。ザラザラ	・好きな素材で遊ぶことができる。指導者と道	・指導者が表情を読み取り、やりとりする。

	した感触を好み、日常的に触っている。体調により覚醒度合いが様々であるが、活動が始まると目を覚ますことが多い。	具を持って、素材を入れ物に入れることができる。素材を注視したり、自分から素材に手を伸ばしたりすることができる。	・ゼリー等視覚的に興味のある物を見せ、触りたいという気持ちを引き出す。
C (5年)	ベトベトする感触や初めて触る物には抵抗感が強い。繰り返し取り組むことや友達の様子を見ることで、苦手な感触にも手を伸ばす姿が見られる。キャラクターと活動をマッチングさせ活動に見通しをもっている。	・二つの素材から、好きなものを選ぶことができる。お玉等道具を使って、素材を入れ物に入れることができる。 ・自分から素材に触ったり、つかんだりできる。	・指導者や友達が楽しく遊んでいる様子を見せることで、やりたいという気持ちを引き出す。 ・本児が好きな固い素材から試し、器に移し替える活動を支えに触れることができるようにする。
D (1年)	遊びの経験は少ないが、何事にも意欲的に率先して取り組む姿が見られる。離席が多いが、見通しをもつと座って授業に取り組むことができてきた。	・提示された三つの素材から、好きなものを選ぶことができる。 ・お玉等道具を使って、素材を入れ物に入れることができる。自分から素材に触ったり、つかんだりできる。	・指導者や友達が楽しく遊んでいる様子を見せることで、やりたいという気持ちを引き出す。

単元計画表

次 (時間)	学習活動	評価規準
1次 (2時間)	<ビー玉の星を作ろう> ・ビー玉と膨らむビーズで遊ぶ。 ・プラネタリウムをする。	・好きな素材を選ぶことができたか。 ・素材を入れ物に入れることができたか。 ・自分から素材に触ったり、握ったりすることができたか。
2次 (3時間)	<ねんどの星をつくろう> ・小麦粉粘土で遊ぶ。 ・プラネタリウムをする。	・好きな素材を選ぶことができたか。 ・小麦粉粘土で形を作ることができたか。 ・自分から素材に触ったり、握ったりすることができたか。
3次 (2時間)	<ゼリーの星を作ろう> ・ゼリーで遊ぶ。 ・プラネタリウムをする。	・好きな素材を選ぶことができたか。 ・ゼリーをお玉等道具を使って、入れ物に入れることができたか。 ・自分から素材に触ったり、握ったりすることができたか。

<この単元に身についた力>	<次の単元に生かせる力>
触りたい物、使いたい道具など、自分でしたいことを決めることが難しい児童がいたが、指導者と一緒に決めたり、2つに絞って決めたりすることで、意思決定する時間が早くなってきた。粘土遊びや寒天ゼリー遊びでは、何度も繰り返すことで苦手な素材でも触ってみようと思えたり、道具を使って色々な物に移し替えてみようと思行錯誤したりする姿が見られた。	人と一緒に決めることを繰り返すことで、「次は自分で決めてみようかな」という物事を選択する力のきっかけにつながった。苦手な感触などにあえて何度も繰り返し触ることができるようになった経験から、苦手なことにも挑戦してみようというきっかけにもなった。どの活動にもつなげていくことができる大切な経験となった。

「喜びをともにする授業」～多様性は可能性～



児童生徒の変容エピソード

	写真	児童生徒の様子
一次		小麦粉粘土を丸めて固めたものに自分たちで色を塗りました。色によって児童たちの反応が異なり、好きな色の小麦粉粘土を多く触る姿が見られました。児童Aは赤や青などのはっきりとした色をよく見て、触るようになりました。何色か同時に提示してみても決まった色に手を出して触る姿が見られました。
二次		小麦粉粘土を自分たちで混ぜました。最初は苦手だったB児も、回数を重ねることで、だんだんと笑顔で混ぜる様子が見られました。単元の後半になると「混ぜたい人」の問いかけに対して児童Bが一番に「やりたい！」と返事をするようになりました。
三次		寒天を手で触ったり、道具を使って容器に移し替えたりすることを楽しみました。柔らかい、中くらい、固いの、3種類の固さを用意しました。固い寒天を触るのは平気ですが、柔らかいゼリー状の寒天を触るのは苦手という児童C。何度も繰り返し取り組むと「ちょぼちょぼ」という音を楽しむようになってきました。さらに回数を重ねることで、自分から手を入れて触ってみたりする姿が見られました。他にも児童Dが遊んでいる様子を見て、容器に移し替える真似をするなどの遊び方が広がりました。

＜単元全体をとおして＞

固体から液体まで、様々な固さの小麦粉粘土や寒天を用意しました。柔らかい感触の物は、手に張り付いて苦手の反応を示す児童が多かったですが、何度も繰り返し取り組むことで、「自分から触ってみよう」という気持ちが芽生えました。繰り返し取り組むことも大切ですが、好きな友達、好きな指導者と一緒に取り組めたこともポイントだったと思います。